

令和4年度 学校評価に関するアンケート調査結果から

柏市立富勢東小学校

【各調査について】

- | | | |
|--------|--|---------------|
| 1 調査期日 | 教職員 | 令和5年1月16日～20日 |
| | 児童 | 令和5年1月23日～27日 |
| | 保護者 | 令和5年1月17日～24日 |
| 2 調査方法 | 質問紙による回答（1～5の選択式） | |
| 3 回答数 | 教職員 | 18 回収率100% |
| | 児童 | 100 回収率 97% |
| | 保護者 | 99 回収率 96% |
| 4 数値 | 1と2の回答・・・肯定的評価
3と4の回答・・・否定的評価
5の回答・・・・・・全体数から除く
割合（%）＝評価数÷（全体数－5の回答数） | |

＜教職員による自己評価から＞

○特に評価が高かった項目（肯定的評価が100%）

- ①「家庭と地域と連携して学校運営」
- ②「全職員による学校経営参画」
- ③「教育資源をつなげる体制づくり」
- ④「教育活動等についての説明（便り・HP・メール）」
- ⑤「小規模校の強みを生かした活動への取組」
- ⑧「児童一人一人を大切にしたいわかりやすい授業」
- ⑨「基本的な生活習慣の定着・挨拶の励行の育成」
- ⑩「安全教育・事故防止」

○評価が比較的低い項目（否定的評価が10%以上）

- ⑩「iPad や chromebook の授業での活用」

○考察

- (1) 17項目のうち、8項目が全職員が肯定的評価（1と2）で、他の8項目でも90%以上であったことから、おおむね良好であったと考える。
- (2) 授業については、基礎的・基本的事項の定着を目指し、個を大切にしたい授業展開や支援員等との連携を図り、充実できたと考える。
- (3) 各行事において、一人一人を大切にしたい、児童の活動機会を確保した企画が

数多くあり、授業以外の教育活動においても、児童一人一人の自己有用感や自尊感情を意識して取り組めた。

- (4) GIGS スクール構想において一人1台端末の活用においては、以前より ICT 活用度は高まっている。否定的評価が約40%（5名）については、学級間での多少の差を感じていることが予想される。あらためて全学級同一歩調で進めていくことを心がけ、より丁寧な研修や確実な見通しを示し、着実な活用度向上を目指したい。
- (5) 重点目標1の「自己有用感を高める教育活動」では、校内研修テーマと一致させ、研修の機会を確保し共通理解が図れたため、意図的計画的な教育活動の実践とともに、児童が実感できる有意義な活動が多かった。
- (6) 重点目標2の「地域とのつながりを深める発信型活動の推進」では、積極的に地域住民に関わりを持ち、多くの事を学ぶ機会ができた。活動に時間を十分確保できるよう年間計画の見直しや円滑な運営を目指したい。

＜児童アンケート結果から＞

○ほぼ全員が肯定的評価であった項目（肯定的評価が90%以上）

- ②「授業が楽しい」91%
- ④「iPad や chromebook の活用」96%
- ⑧「思いやる行動や言葉かけ」90%
- ⑨「教職員への相談」91%
- ⑬「安全についての学習・避難訓練」93%

○肯定的評価が比較的低い項目（否定的評価が20%以上）

- ③「まわりの人に役に立っていると思う」71%
- ⑫「規則正しい生活（早寝早起き朝ご飯）ができた」65%

○考察

- (1) 13項目中、11項目で肯定的評価が80%以上を占めていることから、おおむね良好であったと考える。
- (2) 教職員と良好な人間関係が築け、一緒に学び、一緒に悩み事を考える機会が確保されていると考える。
- (3) ⑤「学校は楽しいですか」の否定的評価11名については、各学級に1～2名存在している。他の項目との関連を調べたが、相関関係は見当たらない。一時的でも「楽しくない」と感じないように配慮していきたい。

＜保護者アンケート結果から＞

○肯定的評価が比較的高い項目（肯定的評価85%以上）

- ①「一人一人を大切にしたりした行事や活動」89%
- ②「基本的な生活習慣の定着・挨拶等の児童育成」89%
- ④「教育活動等についての説明（便り・HP・メール）」91%

- ⑮「安全教育・事故防止」 92%
- ⑯「校舎内外の環境整備」 91%

○肯定的評価が比較的低い項目（否定的評価15%以上）

- ⑦「進んで学習・読書」 41%
- ⑧「わかりやすい授業の実践」 18%
- ⑨「自己有用感・自尊感情を高める授業の展開・活動」 19%
- ⑪「周囲の人を思いやる行動や言葉かけ」 19%
- ⑫「複数職員による諸問題への対応」 19%
- ⑬「いじめ防止のための早期発見・早期対応」 19%
- ⑭「進んで運動・規則正しい生活」 24%

○考察

- (1) 「16項目中14項目で肯定的評価が80%以上であったことから、おおむね良好であり、学校の取り組みに対して一定の理解を得られたと考える。
- (2) ①一人一人を大切にしたりした行事や活動」⑤「小規模校の強みを生かした活動」⑧「一人一人を大切にしたりした授業」等で肯定的評価が高いことから、個を大切にしたりした教育活動に対して理解を得られたと考える。
- (3) ⑦「進んで学習・読書」41%が思いのほか低かった。各学級では、積極的に調べ学習に取り組んだり、発表したりする姿が見られている。家庭でも主体的な学習や読書活動の充実が実感できるような取組が必要と感じた。

＜教職員・児童・保護者の関係関係＞

- (1) 質問内容別に3者または2者の評価を比べると、どの質問内容も同様に近い評価であった。特に、「諸活動についての説明」「小規模校の強みを生かした取組」「安全教育・事故防止」などは、高い数値となっている。
- (2) 教職員と保護者との差が大きいものは、7「進んで学習・読書・調べ学習」である。保護者にも実感できる手立てが必要である。
- (3) 10「生徒指導の充実」では、一人一人を大切にしている指導が保護者にも理解され、結果的に児童は「学校に楽しい」につながっていると考える。
- (4) 13「周囲の人への思いやりの行動」では、学校でも重要視している点で、保護者にも理解されていると考える。
- (5) 14「児童に寄り添った生徒指導」15「いじめ防止のための早期発見・早期対応」では、学校の取組に対して保護者の理解を得られ、軽微の問題が生じても早期解消に結びついているものと考えられる。
- (6) 19「安全教育・事故防止・環境整備」では、工夫された避難訓練の実施や事故防止のための指導等が、児童の育成と保護者への理解につながったと考える。

<関係者評価>

- ・アンケート結果，子どもたちの様子，周囲の声をもとに判断すると，本校の運営は概ね良好だと思う。
- ・全校筑波山登山やマラソン大会では，体力のない子をサポートしたり，児童自身が全体会で総括を発表したりと，子どもの優しい気持ちや積極性が発揮され，大きな学びにつながったようだ。来年度も継続していただきたい。
- ・ICTの活用に関しては，先生方がまだ模索段階だと思われる。
- ・読書を含む本の活用は，課題だと思う。解決法の一つとして，電子図書館の活用はどうか。学校で電子図書が利用できると，よりたくさんの図書に触れることができる。
- ・小規模校ならではのきめ細かな指導ができています。反面，児童数減少により競争心が養われない事も考えられる。近隣校との交流イベント等で補ってはどうか。
- ・「わかりやすい授業」について，三者の評価が分かれている背景には「わかりやすい授業とは何か」が明確に提示されていないからと考える。
- ・自己肯定感の定義が，学校経営の中に盛り込まれていない。教育活動全体の中で培うもので，特に授業中の職員の励ましの声かけで児童をその気にさせる事が必要なのではないかと。更に，家庭での役割が大きいので，家庭での存在感，役割等が発揮できるよう，学校から発信することが大事と考える。
- ・端末導入のねらいはグローバル時代に生きられる児童の育成である。論理的思考やICTを活用するためのアフター GIGA の見極めをするとともに，IT リテラシーの育成，セキュリティー問題，ソフト面の整備が課題と考える。
- ・いじめ等の発生件数は減少していない現状を踏まえた教員，保護者が切実な問題として受け止めることである。特に，道徳の教科化を踏まえた道徳の時間の確保と実践の徹底，更に「いじめ」の気づきに対応する指導体制の確立と家庭教育のあり方に大きな役割を有しているので，望ましい親子関係の構築例を学校だより等で発信すると効果的ではと考える。
- ・すべてのアンケート結果が非常に肯定的で安心をした。一方，本当の思い，悩み，苦しみが回答されているか少々心配である。
- ・いじめの質問に対して，具体的な事項に関しての学校の取組が示せれば本質的な回答が得られるのではないかと。
- ・児童，保護者ともに，学校の取組を高く評価されている点を好ましく感じた。
- ・教職員の肯定感が高いのは，学校の努力の成果ではあるが，何か地域全体で解決すべき問題は隠れてはいないかと感じた。
- ・学団主任の設置，全校朝会の開催など具体的な取組は高く評価できる。
- ・小規模校ならではのフットワークの良さと教職員同士の連携が筑波山登山や会議の設け方に表れている。
- ・小規模校の良さを生かした活動（縦割り活動）は，次代につなぐよい活動となっている。
- ・空き教室の活用はできないか。例えば夏休みの学習室への開放など。
- ・保護者が参観するだけの授業参観から，テーマを設定して保護者が意見交換に参加する活動する日もあっても良いのではないかと。

＜次年度に向けた主な改善課題＞

- 最優先課題は「保護者を巻き込んだ教育を推進する」である。本校教育方針の可視化を目指し、重点目標に掲げる文言の定義づけをし、教育方針内に明文化して保護者もわかりやすいようにしたり、積極的に授業や活動に参加できるようにしたりする方策を打ち立てていく。
- 読書活動の推進をする。読書の量や質を問うのではなく、読書の時間自体を年間通して確保することにより、読書する習慣や読書に伴う生活リズムの定着を目指す。
- 地域の教育資源の活用を推進する。各分野の専門性を学校教育に反映するとともに、地域の一員としての自覚をもち、おとなの立ち振る舞いや言葉遣いなどあらゆる点を学ぶ機会とする。
- 児童アンケートにおいて「学校が楽しい」100%にする。諸問題が生じた時の早期対応や児童理解に努め、関係者が納得した上での解消を目指す。
- 教職員の教師力向上を目指す。研究主任を中心に、目指す教師像をより鮮明に定義づけをするとともに、目標の焦点化をし、全教職員が協働して研修に取り組む体制づくりを整える。